

平成30年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年11月9日

上場会社名 株式会社ツカダ・グローバルホールディング 上場取引所 東
 コード番号 2418 URL <http://www.tsukada-global.holdings>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塚田正之
 問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 山崎誠広 (TEL) 03-5464-0081
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第3四半期の連結業績 (平成30年1月1日～平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	42,330	6.3	1,872	39.0	2,015	39.4	1,218	105.0
29年12月期第3四半期	39,833	2.6	1,346	59.9	1,445	428.1	594	ー

(注) 包括利益 30年12月期第3四半期 802百万円(97.3%) 29年12月期第3四半期 406百万円(ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第3四半期	25.55	25.27
29年12月期第3四半期	12.46	11.15

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年12月期第3四半期	83,932	36,159	41.2
29年12月期	84,447	35,781	40.5

(参考) 自己資本 30年12月期第3四半期 34,592百万円 29年12月期 34,208百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	ー	5.00	ー	5.00	10.00
30年12月期	ー	5.00	ー		
30年12月期(予想)				5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年12月期の連結業績予想 (平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	61,500	7.4	5,000	17.1	5,050	14.8	3,000	36.2	62.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) - 、除外 1社(社名) Best Bridal Korea Inc.

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年12月期3Q	48,960,000株	29年12月期	48,960,000株
30年12月期3Q	1,259,834株	29年12月期	1,259,834株
30年12月期3Q	47,700,166株	29年12月期3Q	47,700,166株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9
3. 補足情報	10
(施行及び受注の状況)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による各種経済政策の効果による個人消費の持ち直しや雇用情勢の改善及び企業収益の改善など回復基調で推移したものの、通商問題の動向が世界経済に与える影響や海外経済の不確実性の存在など、先行きについては引き続き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループはブライダル市場、ホテル市場並びにウェルネス&リラクゼーション(W&R)市場における新たな価値の創造、高品質かつ魅力あふれる店舗づくりと付加価値の高いサービスの提供に取り組み、個性化・多様化するお客様のニーズに的確に対応することで、売上高の拡大と収益性の向上に努めてまいりました。当第3四半期連結累計期間においては、3月に「アートグレイス ネクスト アシヤ」(兵庫県芦屋市)を開業し、また、2020年開業を予定しております「キンプトン東京・新宿」(仮称)(東京都新宿区)の開業準備を推進するなど今後の収益・事業エリアの拡大を進めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、42,330百万円(前年同四半期比6.3%増)となり、利益面につきましては、営業利益1,872百万円(同39.0%増)、経常利益2,015百万円(同39.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益1,218百万円(同105.0%増)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

① 婚礼事業

当第3四半期連結累計期間においては、主力である国内婚礼及び海外挙式において施行組数が増加したことにより売上高は増加し、利益面につきましては「アートグレイス ネクスト アシヤ」のイニシャルコスト等の影響もありましたが施設稼働が堅調に推移したことによりセグメント利益は増加しました。

この結果、当セグメントの売上高は26,405百万円(前年同四半期比8.5%増)、セグメント利益は3,069百万円(同18.7%増)となりました。

② ホテル事業

当第3四半期連結累計期間においては、ホテル婚礼の施行組数が微減となりましたが、宿泊稼働率、宿泊単価が総じて堅調に推移したことにより売上高は増加し、セグメント利益においても全体として高稼働率で推移したことにより増加しました。

この結果、当セグメントの売上高は13,019百万円(前年同四半期比1.7%増)、セグメント利益は319百万円(同0.3%増)となりました。

③ W&R事業

当第3四半期連結累計期間においては、昨年開業した総合フィットネスクラブ「BEST STYLE FITNESS 新浦安」及び複合温浴施設「美楽温泉SPA-HERBS」のフィットネス部門における新規会員の取り込みが堅調に推移したことにより売上高は増加しましたが、利益面においてはリフレクソロジーサロン「クイーンズウェイ」8店舗及び「BEST STYLE FITNESS BALANCE GINZA」の開業費や季節要因等の影響により損失となりました。

この結果、当セグメントの売上高は2,905百万円(前年同四半期比8.0%増)、セグメント損失は276百万円(前年同四半期はセグメント損失271百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産総額は、前連結会計年度末に比べ515百万円減少して、83,932百万円となりました。これは主に、「キンプトン東京・新宿」(仮称)の建設工事に係る有形固定資産のその他(主に建設仮勘定)が1,135百万円、保有しておりました神宮前事業用地の売却及び資金調達等により現金及び預金が5,333百万円それぞれ増加した一方、当該土地の売却等により土地が5,799百万円及び主に減価償却により建物及び構築物が1,105百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債総額は、前連結会計年度末に比べ893百万円減少して、47,772百万円となりました。これは主に、設備投資に係る資金調達により長期借入金(1年内返済予定含む)が8,094百万円増加しましたが、短期借入金が7,610百万円、1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債が500百万円及び納税により未払法人税等が728百万円それぞれ減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産総額は、前連結会計年度末に比べ378百万円増加して、36,159百万円となりました。これは主に、為替換算調整勘定が282百万円減少しましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により利益剰余金が827百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当連結会計年度（平成30年12月期）の業績予想につきましては、平成30年8月7日付け第2四半期決算短信にて公表いたしました数値に変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,985	20,319
売掛金	1,108	1,123
商品	118	124
原材料及び貯蔵品	557	477
その他	1,672	2,100
貸倒引当金	△38	△23
流動資産合計	18,404	24,121
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	24,745	23,640
土地	20,881	15,082
その他 (純額)	2,546	3,681
有形固定資産合計	48,173	42,404
無形固定資産		
のれん	2,004	1,804
その他	231	193
無形固定資産合計	2,236	1,998
投資その他の資産		
投資有価証券	2,675	2,940
敷金及び保証金	8,663	8,183
その他	4,392	4,316
貸倒引当金	△180	△198
投資その他の資産合計	15,550	15,242
固定資産合計	65,960	59,645
繰延資産	82	165
資産合計	84,447	83,932

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,461	2,447
短期借入金	8,100	490
1年内返済予定の長期借入金	3,633	3,156
1年内償還予定の社債	744	590
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	500	—
未払法人税等	1,234	506
前受金	1,625	2,186
その他	4,009	3,587
流動負債合計	22,307	12,964
固定負債		
社債	3,415	3,210
長期借入金	18,848	27,419
退職給付に係る負債	353	304
役員退職慰労引当金	738	774
資産除去債務	2,369	2,386
その他	632	712
固定負債合計	26,358	34,807
負債合計	48,666	47,772
純資産の部		
株主資本		
資本金	472	472
資本剰余金	634	634
利益剰余金	33,816	34,643
自己株式	△892	△892
株主資本合計	34,030	34,857
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△66	△118
繰延ヘッジ損益	—	△109
為替換算調整勘定	250	△32
退職給付に係る調整累計額	△5	△5
その他の包括利益累計額合計	178	△265
非支配株主持分	1,572	1,567
純資産合計	35,781	36,159
負債純資産合計	84,447	83,932

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
売上高	39,833	42,330
売上原価	27,753	29,646
売上総利益	12,080	12,683
販売費及び一般管理費	10,733	10,811
営業利益	1,346	1,872
営業外収益		
受取利息	28	22
受取配当金	23	8
匿名組合投資利益	163	150
不動産賃貸収入	189	168
為替差益	78	7
その他	88	65
営業外収益合計	571	423
営業外費用		
支払利息	163	165
デリバティブ評価損	189	—
不動産賃貸費用	73	75
その他	45	38
営業外費用合計	472	280
経常利益	1,445	2,015
特別利益		
固定資産売却益	0	492
投資有価証券売却益	1	—
その他	—	1
特別利益合計	1	493
特別損失		
固定資産除却損	11	40
投資有価証券売却損	10	—
店舗閉鎖損失	0	65
減損損失	149	180
その他	0	8
特別損失合計	171	294
税金等調整前四半期純利益	1,276	2,214
法人税等	661	975
四半期純利益	614	1,239
非支配株主に帰属する四半期純利益	19	20
親会社株主に帰属する四半期純利益	594	1,218

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益	614	1,239
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8	△51
繰延ヘッジ損益	—	△109
為替換算調整勘定	△215	△276
退職給付に係る調整額	△0	0
その他の包括利益合計	△207	△436
四半期包括利益	406	802
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	438	775
非支配株主に係る四半期包括利益	△32	26

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

前連結会計年度において連結子会社でありましたBest Bridal Korea Inc.は、重要性が乏しくなったため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(簡便な会計処理)

① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合には、法定実効税率を使用しております。

(追加情報)

一部の国内連結子会社において、従来、退職一時金制度、確定給付企業年金制度及び確定拠出年金制度を設けておりましたが平成30年4月1日付けでこれらの制度を廃止しております。当該廃止に伴い「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号)及び「退職給付制度間の移行等の会計処理に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第2号)を適用しておりますが、この適用に伴う当第3四半期連結累計期間に与える影響額は軽微であります。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結結果計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	婚礼事業	ホテル事業	W&R事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	24,338	12,803	2,691	39,833	—	39,833
セグメント間の 内部売上高又は振替高	900	226	0	1,126	△1,126	—
計	25,239	13,029	2,691	40,960	△1,126	39,833
セグメント利益又は セグメント損失(△)	2,584	318	△271	2,630	△1,284	1,346

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,284百万円には、セグメント間取引消去24百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,309百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「婚礼事業」及び「W&R事業」セグメントの一部の固定資産において収益性が低下した状態が続いており、投資の回収が見込めないと判断したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結結果計期間において「婚礼事業」セグメントで139百万円、「W&R事業」セグメントで10百万円であります。

II 当第3四半期連結結果計期間(自 平成30年1月1日 至 平成30年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	婚礼事業	ホテル事業	W&R事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	26,405	13,019	2,905	42,330	—	42,330
セグメント間の 内部売上高又は振替高	973	241	0	1,215	△1,215	—
計	27,378	13,260	2,906	43,545	△1,215	42,330
セグメント利益又は セグメント損失(△)	3,069	319	△276	3,112	△1,239	1,872

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△1,239百万円には、セグメント間取引消去79百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,318百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「婚礼事業」セグメントの一部の固定資産において収益性が低下した状態が続いており、当第3四半期連結結果計期間において投資の回収が見込めないと判断したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額180百万円を減損損失として特別損失に計上しております。

3. 補足情報

(施行及び受注の状況)

(1) 婚礼施行実績

期別	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)	前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)
セグメントの名称	施行件数 (件)	施行件数 (件)	施行件数 (件)
婚礼事業	8,238	9,086	11,800
ホテル事業	1,268	1,194	1,845
合計	9,506	10,280	13,645

(2) 婚礼受注状況

期別	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)		当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)		前連結会計年度 (自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)	
	受注件数 (件)	受注残高件数 (件)	受注件数 (件)	受注残高件数 (件)	受注件数 (件)	受注残高件数 (件)
セグメントの名称						
婚礼事業	9,741	7,681	10,287	8,150	12,571	6,949
ホテル事業	1,394	1,383	1,427	1,349	1,704	1,116
合計	11,135	9,064	11,714	9,499	14,275	8,065